

おokayama ま な ぼ う さ い 学BOSAI 2023



日時 令和5年7月2日(日)
10:00~17:00

場所 イオンモール岡山1階
未来スクエア

参加
無料



ステージイベント

パネルディスカッション

『災害を「知る」「学ぶ」「備える」』

1部: 10:30~12:00
2部: 13:30~15:00

ステージ前の席に限りがありますが、
どなたでもご自由に聴講いただけます。



岡山大学大学院
環境生命自然科学研究科
教授
西山 哲氏
ほか

岡山市 消防音楽隊の 演奏

12:30~13:00



ブースイベント

知る

- 浸水AR体験
- 平成30年7月豪雨
災害現場パネル
- WEB版
ハザードマップ
操作体験



学ぶ

- 家族の
「あんしんカード」作り
 - 新聞紙で作る
マイお椀作り
- ほか 各先着
200名様



備える

- 応急手当体験
 - PHEV車紹介
 - 防災グッズ紹介
- ほか



体験していただいた方には、参加品をプレゼントします。*数に限りがございます。

*災害発生のおそれがある場合は開催を中止する可能性があります。

主催：岡山市

お問い合わせ：危機管理室 086-803-1082

<詳しくはこちら>

イベントの詳細、当日の開催状況などは
岡山市役所のホームページよりご確認ください。



おかやま まなぼうさい 学BOSAI 2023



日時 令和5年7月2日(日)
10:00~17:00
場所 イオンモール岡山1階
未来スクエア

パネルディスカッション

1部:10:30~12:00

災害を「知る」

毎年日本のどこかで水害による被害が繰り返し起こっています。岡山市でも5年前に大きな被害を受けました。今年もどこかで水害が起きるかも知れません。それは、ここ岡山市かも知れません。“災害は忘れた頃にやってくる”と言われてきました。これは科学者で随筆家でもあった寺田寅彦先生の言葉です。皆さん、これまでに襲ってきた災害を忘れていませんか？明日起こるかもしれない災害について“知って欲しい”ことを伝えたいと思います。

2部:13:30~15:00

災害を「学ぶ」「備える」

水害から家族の命を守るためには、どんな備えをしたら良いのでしょうか、どんな行動をしたら良いのでしょうか。その答えは、これまでの災害に襲われた経験から学ぶことができます。“備えあれば患い(うれい)なし(前もって準備しておけば、何か起こったとしても心配ない)”と言われます。これは古代中国の殷国の宰相であった傅説(ふえつ)の言葉です。過去の災害から“学んで欲しい”こと、そして“備えて欲しい”ことを伝えたいと思います。

パネリスト

ファシリテーター



岡山大学
大学院 環境生命自然科学
研究科
教授 西山哲氏



国土交通省
中国整備局 岡山河川事務所
流域治水課長 松井大生氏



岡山大学
大学院ヘルスシステム統合科学
研究科 看護科学分野
教授 原田奈穂子氏



(公財) 岡山県環境
保全事業団環境創造部
環境学習プラザ「アスエコ」
所長 山田哲弘氏



岡山大学
大学院 環境生命自然科学
研究科 博士後期課程在学
金藤純子氏

●京大大学院修了。民間会社勤務の後、同大助手、准教授を経て2013年から現職。岡山市浸水対策推進対策協議会会長、高梁川・吉井川水害タイムライン検討会座長など地域の防災・減災力向上の取り組みに関わりながら「被災工学」の研究・教育に従事。笠岡市出身

●お年寄りや幼い子供、あるいはペットと暮らしている人とそうでない人では災害への“備え”が異なります。それぞれの人にとっての災害の怖さを“知り”、それぞれの人にとって大事な“備え”を“学んで”ください。

●2016年 国土交通省入省。近畿地方整備局の河川事務所での現場勤務、本省の水管理・国土保全局で河川政策、治水計画などの業務を経て、2022年より中国地方整備局 岡山河川事務所勤務。現在、吉井川、高梁川の治水計画、旭川を加えた岡山三川の流域治水の推進や広報業務に従事。千葉県出身

●1部では、近年の水害や気候変動を踏まえた治水対策「流域治水」についてお伝えします。2部では、皆さんができる流域治水の取組、水害リスクの見方、避難の方法、グリーンインフラまで幅広くご紹介いたします。

●ボストンカレッジ大学院修了。防衛医科大学校、東北大学、宮崎大学等を経て、2022年から現職。学際研究を通じて、「我慢させない災害支援」「傷つけない・傷つかない災害支援」の実践・研究・教育に従事。避難所運営ガイドラインに「避難所の質を高める」ために参考にすべき資料と言及されているスフィア基準公認トレーナー。千葉県出身

●いきなり来る地震のような災害と、時間的猶予がある水害では、備えることも異なります。心と体を守る、今できる水害への備えをご紹介します。

●1994年入団。岡山の野生動物調査を約13年、岡山県自然保護センターでは自然の素晴らしさや、それを伝える人の育成に5年間従事。その間、岡山県版レッドデータブックの作成にも携わる。環境教育では身近な自然の美しさ、素晴らしさを発見することで、ひとつしかない地球の大切さについて考える体験活動が得意。岡山市出身

●気候変動への対策には『緩和』と『適応』、二つの考え方があります。私は『緩和』について、皆さんが今日からできる事をお伝えします。

●神戸大学卒。JTB、ソフトウェア開発会社専務取締役を経て2018年故郷の倉敷市真備町で西日本豪雨に被災、自宅が全壊した体験をきっかけに、防災啓蒙活動など社会課題の解決に取り組む新会社EnPalを設立。23年4月大学院に入学。倉敷市出身

●災害が起きる度聞える「まさか自分が」の声。私も被災するまでハザードマップを見ていませんでした。事前に少し「知って」おくだけで後悔しなくて済んだのに…。それぞれの専門家から、暮らしに役立つ災害の知識、備えの知恵を伺います。



当日パネルディスカッションへ参加し、事後アンケートに答えていただいた方に、粗品をプレゼントします。ステージ前の座席には限りがありますが、どなたでもご自由に聴講いただけます。

主催：岡山市
お問い合わせ：危機管理室 086-803-1082